



市議会議員

奥村さち子

所属委員会

- ・厚生委員会
- ・学校施設老朽化対策特別委員会

12月議会 一般質問

「ちゅうバス」の再編 北山町エリアでは 大幅な変更が！

市内の交通不便地域の解消と、移動が困難な市民の日常生活を支えるために運行されてきた「ちゅうバス」は、2026年4月から路線などが変更になります。それにより大きな影響を受けるのは、市の北西に位置する北山町エリアです。

府中駅から北山町まで運行していた「北山町循環」は大幅なルート変更で、本宿町までの折り返しとなり、北山町には行きません。代わりに、ワゴン車による「ちゅうバス」が90分間隔で、中河原駅へ行く「新府中街道ルート」が1年間の「実証運行」として通ることになりました。

暮らしへの影響は

「府中駅や市役所に行けない」「これまで通っていたスーパーや病院に行かれない」「ワゴン車両だと乗り切れるか不安」などの声があります。11月の「実証運行」に関する地元説明会でも、「高齢者はちゅうバスを使って、買い物や通院などの日常生活を送っていた。外出もしづらくなり、とても困る」といった切実な声が多くあがっていました。これまでの日々の生活が困難になったり、外出を控えることで、介護が必要に

なってしまうリスクがあります。本格運行に向けた検証方法などを質問しました。

答弁では、「実証運行中に住民とワゴン車両利用者へのアンケート調査を行ない、見直しを検討する」とのことでしたが、「実証運行」の検証の基準は未決定でした。「実証運行」をするなら検証の基準も合わせて明確に示すべきです。

高齢者の利用が多い西原町エリアでの通院や買い物に行き来できるルート設定を求め、検証は、高齢者や子育て世帯などの実態を丁寧に調査すべきと訴えました。



外出や交流の機会を損ねることは、福祉政策の後退にもつながります。福祉の視点で、「実証運行」の検証をすることを求めました。

生活者ネットワーク

佐久市・視察 2025/11/9

支え合いながら地域で暮らす

●長野県高齢者生活協同組合・東信地域センター

長野県佐久市にある長野県高齢者生活協同組合副理事長、田中夏子さんと、前センター長、松崎裕子さんから、東信地域センターの「福祉の協同組合」としての取り組みを伺いました。

小規模多機能型居宅介護の「四季のベンチ」、組合員による倶楽部・サロン活動、介護予防の「かがやき広場」、地産地消で365日、高齢者の見守りと食を支えている配食の「米(まい)ちゃん弁当」の4つの事業を運営しています。サービスを利用する人と共に、必要な地域資源として踏ん張っている姿勢に大変感銘を受けました。

この生協の目的は、「今後不安定な介護保険制度の中でもお互いに助け合いながら、サービスやケアをやりとりできる場をつくっていくこと、孤立や不安がなくなるよう、生きがいや暮らしの張りをつくるための仲間づくり、高齢者でも安全に従事できる仕事、地域に必要な仕事を生み出すこと」でした。人と人が「つながる」こと、関係性をつむぐことが、地域福祉の原点であると実感した視察となりました。



田中夏子さん

●梨の木舎ガーデンカフェ布施谷



左から2人目
羽田ゆみ子さん

田中夏子さんの案内で、都内の出版社「梨の木舎」の舎主・羽田ゆみ子さんが開いた「梨の木舎ガーデンカフェ布施谷」を訪ねました。古民家の広間に大きなテーブルと本棚を整え、カフェに改装した居場所は、里山に囲まれ、晩秋の光景にうっとり…でした。ヤギのふーちゃんもいます。羽田さん、田中さん、佐久市議の小松みほさんと意見交換をしました。佐久市議会では「ゲノム編集食品表示を求める陳情」を全会一致で採択したそうです。

羽田さんは「東京から来る人に田舎を知ってほしい、居場所があることで人とのつながりができる」と話されました。古民家は戦死した羽田さんの叔父さん縁の家だそうです。「梨の木舎」といえば、「教科書に書かれなかった戦争」シリーズが有名で、アジアへの日本の侵略の責任や女性・人権問題に一貫して取り組んできた出版社です。「慰安婦問題」をきっかけに、「どんな力がアジア侵略に向かわせたのか知りたい」との思いから出版を続けてきたそうです。思いを貫いた半生には敬意しかありませんでした。



12月議会より

陳情

「ゲノム編集食品の表示の義務化を国に求める意見書の提出を求める陳情」

表示の義務がない「ゲノム編集食品」に対して、「生命と健康に直結する分野である食について、消費者が何を選んで食べるかを主体的に判断できる環境づくりのため、国に制度の改善を求める」という趣旨の陳情が提出されました。

本会議で、採択となり、府中市議会として国に意見書を提出することになりました。

ゲノム編集食品とは

ゲノム編集は、ゲノムと言われる遺伝子の総体の中から、標的とした遺伝子を切り取る技術によって品種改良を行なうもので、高血圧に効果があるギャバを多くしたトマトのジュースなどが流通しています。しかしゲノム編集は、ターゲットとなる遺伝子を確実に切り取れるとは限らないことや、ゲノム編集を確認する「マーカー遺伝子」の人体への影響などが疑問視されており、健康へのリスクが未解明です。

厚生労働省は、「ゲノム編集の技術は自然界でも起こる変化であり、食品衛生法が定める安全性審査の対象

予算要望を提出(11月20日)

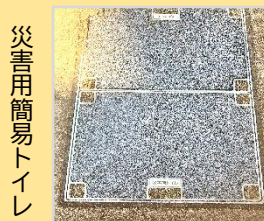
2026年度の生活者ネットワークの予算要望を提出しました。

- ◆住吉文化センターでスタートした午後8時まで利用可能な、青少年のための居場所事業を拡大すること。
- ◆災害時に自宅にとどまる人にも食料などの支援物資を供給する。
- ◆介護人材の確保、Co2削減の取り組みなどは、市としての積極的な施策を進める。
- ◆包括的性教育の充実、スマホの影響を学ぶ機会をつくる。

など全82項目となりました。全文はホームページに掲載しています。

生活者ネットワークの地区活動 防災の視点でまち歩き ～西府町～

スタートは西府町農業公園。この公園には災害時に使用するための災害用簡易トイレがありました。煮炊きができる「かまどベンチ」も設置されています。このベンチを使用するには、開錠し、ベンチに貼ってあるQRコードからスマホで使用の手順を読み込みます。災害時にはスマホが使えないこともあり、日ごろから防災訓練などで実際に体験しておくことが大切です。



災害用簡易トイレ



かまどベンチ

西府町3丁目から4丁目へと生活道路を歩きました。細い道が入り組み、行き止まりが多いことがわかりました。高いブロック塀、古い空き家もあり、道路の真ん中にある電柱も見られ、緊急車両の通行に不安もありました。防災の視点でまちを歩くことで見えてきた課題を、行政、自治会などと共有していきます。



児童数の減少から 武蔵台小と七小が統合に?!

校舎の老朽化対策を進める中、児童生徒数が減少している学校に対し「より良い教育環境を確保する」ために、学校を統合する計画が示されています。

武蔵台小学校と第七小学校の統合に向けて、保護者や地域住民への説明が進められています。12月議会では、第七小学校の敷地に、統合する学校を建設することが示されました。今後、改めて説明を行なうということです。

保護者に向けたアンケート調査では、通学距離が延びることや、交通の安全について、不安の声が多くありました。保護者や児童、地域住民

生活者ネットワーク・福祉部会視察

終活支援について～静岡市～

生活者ネットワークの福祉部会では、終活支援について、意見交換会や調査活動を行なってきました。先駆的に終活支援を行なう横須賀市、大和市に続き、昨年10月には静岡市に行き、終活支援についてお話を伺いました。

静岡市の高齢化率は31%、独り暮らしの高齢者も増加しています。身寄りのない方も増えており、終活支援の民間事業者を利用するにあたっては、どこがいいかわからない、信用できない、などの声が寄せられたことから『安心感がある温かい社会推進課』では、「終活支援優良事業者認証事業」を開始しました。

有識者による委員会が策定した認証基準に則って、市が優良事業者を認証します(3年で更新)。事業者は、施設入所時の身元保証や葬儀などの死後事務を行ないますが、その費用は利用者が静岡市の公社に預託します。市は契約時から立ち会い、死後事務まで責任を持って見届けています。

終活支援サービスを提供する事業者は増えており、課題も多くあることから、国はガイドラインを作って対策をすすめています。府中市でも、当事者任せにしない対応が求められます。

わくわくまちづくりサロン

議会報告とまちづくりについての意見交換会です。視察報告もあります。お気軽にご参加ください。

1月27日(火)10:00～12:00

府中市市民活動センター プラッツ第3会議室

お問合せ 府中・生活者ネットワーク 042-360-4443

Eメール fuchu-snet@ric.hi-ho.ne.jp

